



## 愛川ふれあいの村 11月の風景

# 平成27年11月 自然のたより

11月に入ってから雨が続けていることもあってか、イチョウが黄葉してから散るまでの期間が例年よりも短かったです。また、モミジは11月終わりごろからやっと赤く色づき始め、見学にいらした方々を楽しませてくれています。紅葉と黄葉が同時に楽しめるのも、あと少しです。



青空と紅葉



モミジの木にとまるエナガ



綺麗に色付いたイチョウ



ニシキギ



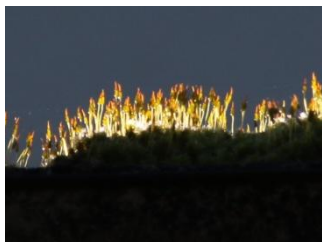
ハクテングケ



ヒロハツヤゴケ



アオゲラの羽根



ヤノウエノアカゴケ



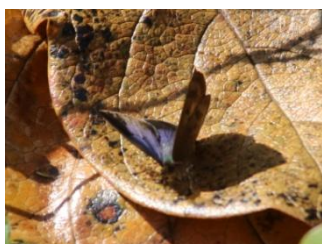
コウテイダリア



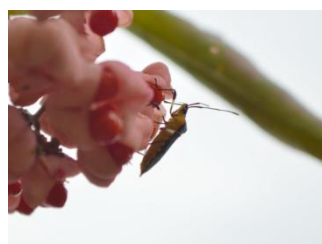
ハキダメギク



トビ



ムラサキシジミ



ミミの実とハナカササギ



ウバユリ



キタキチョウ



## ◆紅葉のしくみ◆

### なぜ葉っぱは赤や黄色に変化するのでしょうか？

木々は秋になると葉が赤や黄色に染まり、山々を彩り、私たちを楽しませてくれます。モミジやイチヨウ、ケヤキやポプラなど種類は豊富です。

さて、緑色から赤色や黄色に変化する『紅葉のメカニズム』はご存知でしょうか。

紅葉・黄葉は、いわば『冬を越すための準備』です。秋になり、日差しが弱くなると光合成を止め、葉を落とす準備に入ります。この期間は光合成が行なわれていないため、葉の栄養は失われていきます。

そのため、光合成を行なう葉緑体は必要なくなり、葉の緑色を形成している色素(クロロフィル)が分解されると同時に赤色を形成している色素(アントシアニン)が作られ、赤色に見えるということなのです。

また、黄葉に関しては紅葉のメカニズムとは違い、もともとクロロフィルに混じって黄色色素(カロテノイド)が葉の中にあります。

しかし、クロロフィルの量が多いため、緑色に見えるのです。秋になって、クロロフィルが分解されると、カロテノイドが優勢になり、黄色に見える、ということなのです。

紅葉が見れるのも残り数日…。ぜひ紅葉スポットに足を運んで秋を満喫してください。



## ▼世界的にめずらしい鳥！▼

日本ではどこにでもいて、良く見られる「ヒヨドリ」ですが、実はヨーロッパやアフリカなどには生息していないことから、世界的にはとても珍しい鳥なのです。

本来ヒヨドリは、越冬のために韓国方面から渡ってきて、翌春にまた山地に戻り繁殖をする『冬鳥』だったのです。しかし、1970年頃から市街地に留まるようになりました。

日本では害鳥対象になる場合もある鳥ですが、海外の方からするととても貴重な野鳥です。

世界で珍しい鳥が日本にいることに誇りを持って、ヒヨドリとの共存をしましょう。



## ★旬のお知らせ：12月★

秋から2月頃までにかけて、ダイコンが美味しい季節です。一般的に出回っていて、年中スーパーで見られる「青首大根」や「ラディッシュ」などもありますが、その土地や地域で古くから栽培されている『地大根』というものもあります。大根は食物の消化を助ける働きや腸の働きを調べてくれるといった、人にとってはメリットばかりです。ぜひ、この冬から大根の効力を感じながら食べてみてください。



## ◎12月の

### 注目ポイント◎

今年も残すところ約一カ月。寒さが厳しくなり、暖房が恋しくなる季節です。

そんな時期に、環境省などが十二月を『地球温暖化防止月間』と定めました。

「地球温暖化」とは、温室効果ガスと言って、二酸化炭素やメタンと呼ばれるものが原因で、地球の周りにたまり、太陽からの熱が宇宙に戻らず、濃度が高まって気温が上昇してしまうこと。

この温室効果ガスがある程度抑えていかなければ、今後、今よりも地球温暖化が進み、流水が溶けて国土が小さくなったり、寒いところでは生きられない動植物が絶滅の危機にさらされることになるでしょう。

来る冬に向け、二酸化炭素の排出を抑えるためにも、こまめに電気を消したり、車のアイドリングを控えたり、室内では服を調整したりと、できることを少しずつおこなっていきましよう。自分達の生活環境は自分で守っていきましよう。



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★